

このサイトで紹介している、『*English in Action* デジタル教材改編版』は、*English in Action Online* と同じ内容の教材を、電子ボードでお使いいただくためのものです。

はじめに

『*English in Action* デジタル教材改編版』(電子ボード用)をお使い下さる皆様へ
紙媒体のテキストから、タブレット端末の教材へ進化しました。

《一人でも学べる、友だちや指導者と一緒だったらもっと楽しい教材》

小学校英語教育が、2020年に向けて大きく変わろうとしていることが2つあります。1つは、今まで5,6年生で必修とされていた「外国語活動」を「教科」とし、「英語活動」を3,4年生からにすることです。もう一つは、同じく2020年に向けて検定教科書のデジタル化が進行していることです。この大きな変革が数年先に迫っていることを踏まえて、ぼーぐなん教材も新しく生まれ変わりました。

小学校に電子ボードの設置が着実に進んでおり、普及率が80%に近づいています。紙媒体と音声教材(CD)による授業に使われてきた *English in Action* のデジタル化に着手したのは2010年でした。このことで授業展開の方法に新風を吹き込むことができました。

電子ボード上で教材を使うと、手で触って画面の文字やイラストを軽くタッチすることで、英語を聞いたり歌ったりできるようになり、テキストを手にしてCDを聞く学習方法とは全く違う授業形態が可能になりました。

この電子ボード上で使えるようにしたデジタル教材を、この度タブレット端末でも使えるように更に改編し、子どもたちも自分の指やペン・ツールで操作しながら英語と触れ合うことができるようにし、*English in Action Online* を制作し、どの機種でも操作できるように“コンパチ化！”もいたしました。今までの学習方法とは違う大きな前進だと思います。

画面上の英語の単語や文に埋め込まれている音声をクリックして聞いてみて下さい。そして、イラストをクリックすると同じように音声を再生できます。どんな状況で英語が使われているのか、その場に居合わせたような気持ちになれると思います。ボード上の動物や、身近なものなどを試しにクリックしてみると、会話の流れが分かります。

画面のあちこちをクリックしながら、遊びに似た活動の中で繰り返して英語を聞いて、意味を確認してみましょう。聞こえてくる英語の意味を日本語で説明する必要はありません。また、子どもに何が分かったのかと問い詰めないでください。画面のイラストやスピーカー・マークなどをドラッグして英語を聞いていると、子どもたちは分かったような気分になるでしょう。もし、聞き取りがうまくいかないことがあっても、「じゃあ、もう一度聞いてみよう」とクリックしてみると、「ああ、やっぱりそうらしいな、そうだと思った」ということで納得してくれると思います。こうして英語への親近感が生まれ、更にもう一度クリックしてみたくなればしめたものです。このデジタル教材は、何度でもイヤな顔をせず、疲れた顔もせず、繰り返してくれますから、飽きるまでクリックして聞き続けていただきたいと思います。子どもが自分で判断しながら、学び続けられる、というのが最大の利点です。

ぼーぐなん *English in Action* は全部で4冊、1冊に10レッスンずつ、40のレッスンで構成されており、その内容が目指すものは、次のようになっています。これは、最初にこの教材が出来たとき(1983年)に作ったマニュアルから抜粋したものです。

1冊目(Ls.1~10):

自分のことが英語で伝えられ、自分のことを伝えている人の話が理解できる。
英語らしい音を、歌やライムを使って経験させる。

2冊目(Ls.11~20):

英語での伝え方に言語的なルールがあることを、ゲーム的な活動を通して気づかせていく。
代名詞+動詞の文のルールを経験させる。
英語の音の面白さを、早口ことばや歌・ライムを活用して経験させる。

3冊目(Ls.21~30):

形容詞や、動詞の語彙を増やして、情報量を多くし、伝達する面白さを経験させる。
高学年が他教科で学習する内容を、英語でも表現できることを経験させる。

4冊目(Ls.31~40):

動詞による表現に助動詞・時制の変化を加えて、伝達する内容を深める。
ストーリー展開のあるものを、複数の文を使って表現することに慣れる。
英語らしい使い回しに慣れる。文字での表現も、少しずつ文単位の段階に進めていく。

※別ファイルの「40レッスンの指導のポイント一覧」をご参照ください。

尚、低学年から英語に少しずつ慣れ親しみ、歌ったり、ゲームをしたりして英語らしさを身につけた後で、この40レッスンで学習を続けることができると、子どもたちは抵抗なく *Workbook* も自学自習で楽しめるようになるでしょう。

この教材で初めて英語に触れる場合は、慌てることなく、ゆっくり子どものペースに合わせて繰り返してボードをクリックしながら英語の音の流れに慣れ親しみながら、表現活動を楽しんでいただきたいと思います。

5、6年生になる頃には、論理的に考える力が付いているので、単なる練習の文を聞いたり言ったりするのは、不自然な表現で抵抗を示すようになります。そして、なかなか口頭で表現しようとしなくなる場合があります。無理強いをせず、機械的な口頭練習は避けてください。自分の知っていること、身近なことを伝えたいとなると、思わず英語で表現するようになりますので、じっくりと待ちましよう。

10歳になるまでの、新しいことへの好奇心が旺盛で、無邪気に表現活動に参加できる頃にふさわしい教材、*English in Wonderland* と *Welcome to Wonderland* の2冊も デジタル化をし、皆様にお使い頂ける準備を進めています。

また、*English in Action* 40レッスンの指導方法や、*Wonderland Series* の扱い方などについては、『子どもと共に歩む英語教育』(ぼーぐなん)に詳述してありますので、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

2016年4月 久埜 百合